論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1439 号	氏名	Elizabeth Ajema Chebichi Luvai

学 位 審 査 委 員	主　査　　吉田　レイミント 副　査　　金子　聰 副　査　　南保　明日香

論文審査の結果の要旨

１　研究目的の評価

チクングニヤウイルスは、多発関節炎を伴う急性熱性疾患を引き起こすことが知られている蚊が媒介するウイルスである。2019 年にミャンマー国ではチクングニヤウイルス感染症のアウトブレイクが複数の研究機関から報告されたが、同国では 2011 年から 2018 年までチクングヤアウイルスの流行報告は全くなかった。本研究は、2013 年、2015 年、2018 年に採取された同国の保存血清を用いて、ミャンマーにおけるチクングニヤウイルス感染症の状況、疫学を解明したもので、目的は十分に妥当である。

２　研究手法に関する評価

ミャンマー国の Yangon, Mandalay, Myeik 地域で 2013 年、2015 年、2018 年にデング熱疑い患者、および健康人から採取された 1,544 検体の血清を利用してチクングニヤウイルスに対する IgG、IgM 抗体とウイルス中和抗体を検査してチクングニヤウイルスに対する疫学データ解析を実施した。統計処理には Chi-square test, Kruskal-Wallis H test and Mann-Whitney U test を用いで解析したもので、研究手法も妥当である。

３　解析・考察の評価

上記手法で解析した結果、チクングニヤウイルス IgM, IgG のいずれかで陽性であった検体は 34.6%であった。ウイルス中和抗体の陽性率は 32.5%となったことが解明されました。多変量解析では年齢、健康状態、居住地域と抗体陽性率とには優位の相関($p < 0.05$)が確認された。年代別の抗体陽性率（いずれかの方法で陽性）は 2013 年；32.1%、2015 年；28.8%、2018 年；37.3%であった。年代別の平均中和抗体価は 5 歳以下のグループが他の年齢層と比較して最も低い値であった。有症者で血清学的にチクングニヤウイルス感染が証明できた患者でもっとも多い症状は発熱と関節痛であった。

以上のように、本論文で解明した結果はミャンマー国におけるチクングニヤウイルス疫学、流行パターンを明らかにされたものであり、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。